

## 行田市と鴻巣市の架け橋に

5月6日、行田市と鴻巣市を結ぶ工業団地通線の完成を祝して開通式が行われました。

式には工藤市長や原口鴻巣市長らが出席し、道路の完成を祝い、テープカットを行いました。この道路が完成したことで、周辺道路の交通渋滞の緩和や富士見工業団地および長野工業団地への物流輸送の強化に加え、鴻巣市へのスムーズな往来が実現されたことにより、地域間交流がさらに深まることが期待されます。



## マップ作成で福祉のまちづくり

4月22日、「みらい」で福祉のまちづくり講演会が開催されました。この催しでは、地域住民による支えあいについての講演が文化ホールで行われた午前中に続き、午後からは中央公民館第1学習室で、ささえあいマップの作成演習が行われました。

ささえあいマップの作成には、民生委員をはじめ公募市民など60人を越える方が参加しました。このマップは、地域にどんな要援護者や協力者がいるのかや、その地域が抱える問題などの情報を共有するためのもので、マップづくりのノウハウを約3時間かけて学びました。



## 古き良き時代を満喫

5月15日、16日の2日間、NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークと行田商工会議所の共催による「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」が開催されました。

ボンネットバスや人力車も登場したこの催し。足袋蔵マップを片手に持った参加者は、スタンプラリーや各蔵で行われた藍染体験や足袋の製造実演などのイベントを満喫し、古き良き時代を再認識していました。



## 米作りの重要性を体感

5月12日、東京農業大学第三中学校2年生の皆さんが稲作体験を行うため、行田市を訪れました。

市内で農業を営む新井健一さんらによる苗の植え方についての説明を受けた後、半袖、短パン、田植え足袋姿で田植えに臨んだ155人の生徒たち。足元の不安定さと水の冷たさに悲鳴や歓声を上げながら、一本一本丁寧に愛情込めて苗を植え、泥んこになりながらも、米作りの重要性を肌で感じていました。